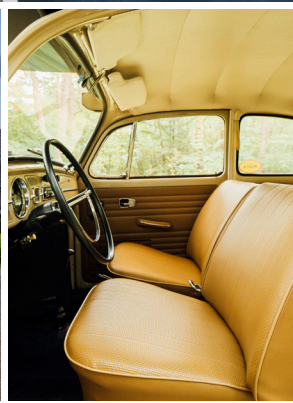
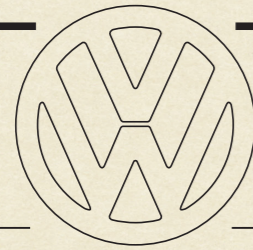




Volkswagen Book





Volkswagen Chronicle 1937-2018

フォルクスワーゲンの長い歴史。その道の中でロードサインとして輝いた歴代のマスターピースの数々。歴代のオーナーの方なら懐かしい友との再会のようにも感じられることでしょう。モデルやスタイリングは変化しても、変わらないことがあります。誰もが乗りやすく、世界中で愛されるクルマであること。当たり前のようにいて、けっこうむずかしいことなのです。

1938



Type 1

1950



Type 2

1955



Type 14 Karmann Ghia

1961



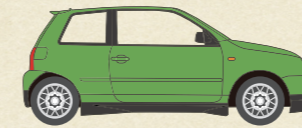
Type 3 Fastback Sedan

1962



Type 3 Squareback

1998



Lupo

1998



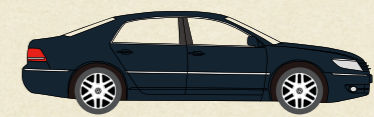
New Beetle

1998



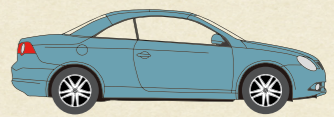
Bora

2002



Phaeton

2006



Eos

1967



Type 2 Westfalia

1968



VW181

1971



Type 1 Super Beetle

1974



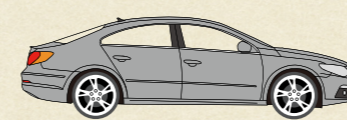
Golf (1st)

1974



Scirocco (1st)

2008



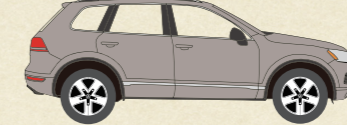
Volkswagen CC

2010



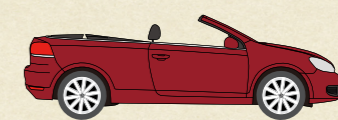
Sharan (2nd)

2010



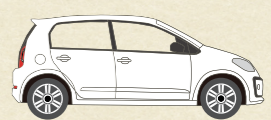
Touareg (2nd)

2011



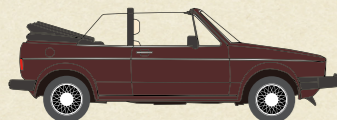
Golf Cabriolet (6th Golf)

2011



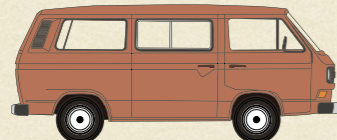
up!

1979



Golf Cabriolet (1st)

1979



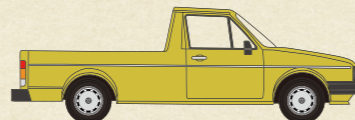
Vanagon

1979



Jetta (1st)

1979



Caddy (1st)

1983



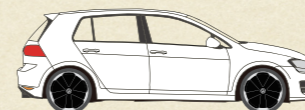
Golf (2nd)

2011



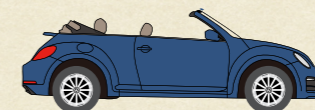
The Beetle

2012



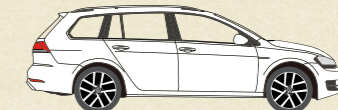
Golf (7th)

2012



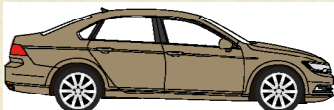
The Beetle Cabriolet

2013



Golf Variant (7th Golf)

2014



Passat (8th)

1984



Golf GTI (2nd)

1984



Santana

1988



Corrado

1990



Golf Country

1997



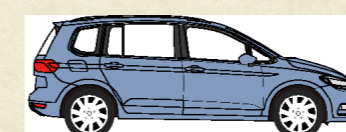
Golf (4th)

2015



Passat GTE Variant

2015



Golf Touran (2nd)

2016



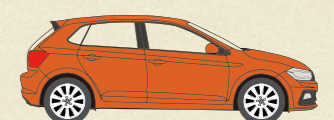
Tiguan (2nd)

2017



Arteon

2017



Polo (6th)

BEETLE
1938

僕たちを夢中にさせた
時代のアイコン
LEGENDARY

Beetle

1938年にドイツで生まれたフォルクスワーゲン・タイプ1“ビートル”。アメリカ西海岸でカウンターカルチャーと出会い、ファッションやライフスタイルを象徴する時代のアイコンとなったクルマです。映画『ラブ・バグ』では、1963年生まれドイツ系アメリカンレーサー『ハービー』としてスクリーンを駆け回ったことをご存知ですか？ そうそう、映画『トランスフォーマー』の人気者、パンブルビーだってもともとはビートルに変身していたのです。2003年には最後の1台がメキシコでラインオフ。累計生産台数は2150万台という未曾有の記録も樹立。あの頃も今も、ずっとそばにいたのが僕たちの永遠なるビートルです。



*写真は1973年モデルです。

'40s-'50s Dream - People's Car



アメリカンドリームになったボルシェ博士の夢
ボルシェ博士が描いたビートルズの夢は、戦後のドイツ国民の希望となり、海を渡りました。そこはゴールデンエイジとも呼ばれた1950年代のアメリカ。ビートルは大成功を収め、文字通り、アメリカンドリームを体現するクルマとなったのです。

'60s-'70s Surfing USA



自由の翼を得たビートル
1960年代から70年代のアメリカ西海岸にはカウンターカルチャーの波が押し寄せていました。サーフボードは自由という翼をビートルに与え、カリフォルニア（California Look）のビートルが人気に。



BEETLE
2018

時代を超えて
受け継がれる
ライフスタイル

The Beetle

クルマを超えてカルチャーになったビートルは、いつの時代も、僕たちのライフスタイルそのものでした。いや、過去形ではなく現在進行形で。あの時代は戻ってこないけれど、今の時代にふさわしいビートルズカーがあってもいいんじゃないかと思う。2011年、僕たちの目の前に1台の新しいクルマが登場。そのザ・ビートルには僕たちをワクワクさせる理由がありました。時代を超えて受け継がれるストーリー、それとも……。未来は誰にもわかりませんが、ひとつだけ確かなこと。あの時代の熱狂や匂いは今もここにあるのです。さあ、新しい時代への“ドア”を開いてみましょう！



'90s-'00s New Era



伝統とテクノロジーの融合
1998年、ビートルをデザインモチーフにしたニュービートルが誕生。そして、2003年にはいよいよビートルの生産が終了。半世紀を超える伝統にテクノロジーと情熱が融合し、新しい時代が走り始めました。物語は続くのです。

'10s Everlasting Lifestyle



ライフスタイルのパトロンタッチ
最新の技術とデザインを身にまとったザ・ビートルが2012年に登場。クルマという枠を飛び越えて、時代のカルチャーになったビートル。そのライフスタイルは、新しい1台にパトロンタッチされました。
*ザ・ビートルの国内販売は2019年に終了となる予定です。

SHARP
ADULTORS
SPORTY
ADULT IN SAFETY
HEAD-UP DISPLAY
NEW GENERATION
INTERIOR AMBIENT LIGHTING
DSG/TSI
DIGITAL METER
DYNAMIC LIGHT ASSIST
ADVANCED SAFE DRIVING SUPPORT SYSTEM
FULL-TIME 4WD
ADVANCED TECHNOLOGY
COMFORTABLE
EASY OPEN & EASY CLOSE
DISCOVER PRO
ADAPTIVE CRUISE CONTROL
7-SPEED
TRAFFIC ASSIST
PHONOIC SLIDING ROOF
PARK ASSIST
4MOTION
AREA VIEW
KEYLESS ACCESS
LANE ASSIST
SMART
R-LINE
XDS

ALL IN ONE



Arteon

280馬力のTSI[®]エンジン、フルタイム4WD、デジタルメータークラスター、R-Lineパッケージ、20インチアルミホイール…
 これが全部“標準装備”です。

お気に入りの1台を手に入れるためにオプションをあこれと追加したら予算オーバーに…。そんな経験ありませんか？アルテオンならぜんぶ標準装備で599万円*。独自の共通技術“MQB”を採用しているからこそ実現した価格です。もちろん、フォルクスワーゲンだから実用性も使い勝手も心

配りません。後席の居住空間も広く、ハッチバックスタイルのラゲージは余裕たっぷり。想像以上にたくさんの荷物が入ります。このスタイリングで、実用性も装備も申し分ありません。フォルクスワーゲンの魅力がぜんぶ詰まった、今流行りの最新ファストバックです。



URBAN LIFE SUV



Tiguan

ダイナミックなスタイル
 使いやすいサイズ感で
 冒険への扉を開くSUVです

ボディサイズからは想像もつかない迫力あるダイナミックなフォルム。視界が広くて取り回しやすいから、もう一歩先へという冒険心にも弾みがつくはず。フォルクスワーゲン自慢の先進装備も満載です。例えば、ナビ画面を目の前に表示できるデジタルメータークラスターやスマホ感覚の次世代インフォテイメントシステム。

各種安全装備ももちろん標準装備。卓越したパフォーマンス、疲れにくいシートと広い室内、そして大容量ラゲージスペースも、このSUVの使いやすさを引き立てます。ドイツでの販売台数No.1*という数字にふさわしい実力です。これだけの魅力を兼ね備え、しかも使いやすいSUV、ほかにあるでしょうか？